

2019年度 日本生活学会事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

I. 事業活動

- 第46回総会・研究発表大会
2019年6月8日(土)、9日(日) 跡見学園女子大学 文京キャンパス
- 生活学プロジェクトの運営

II. 役員会開催

1. 理事会 6回 (うち1回はWeb会議での開催)
2. 『生活学論叢』vol.35 編集委員会 6回 (+メール審議)
3. 今和次郎賞2019 選考委員会 1回
4. 日本生活学会研究論文賞2019 選考委員会 1回 (メール審議)
5. 日本生活学会博士論文賞2019 選考委員会 1回

III. 出版物発行・メールニュース配信

- 2019年6月 「第46回研究発表大会梗概集」
- 2019年9月 『生活学論叢』vol.35
- 『日本生活学会フィールドワークシリーズ 005:フィールドワークへのブックガイド』
- 日本生活学会メールニュースの配信

IV. 委員会活動

1. 総務委員会

委員長 藤木竜也

- (1) 第46回総会の開催 2019年6月8日 於：跡見学園女子大学 文京キャンパス
2018年度事業報告、同収支決算報告、2019年度事業計画案、同事業予算案作成
日本生活学会博士論文賞(1件)、日本生活学会研究論文賞(1件)
- (2) 大会(公開シンポジウムならびに口頭発表)開催
2019年6月8日、9日 於：跡見学園女子大学 文京キャンパス
- (3) 理事会運営 6月8日、7月6日、9月21日、11月9日、2月29日、4月11日(Web会議)
- (4) 理事・監事選挙の運営 投票期間12月5日～25日

2. 学術委員会

委員長 中野紀和

- (1) 日本生活学会第46回研究発表大会が、跡見女子学園大学文京キャンパスにおいて、6月8日(土)、9日(日)に開催された。「弔いと生活：死をめぐる現在をとらえる」をテーマとした公開シンポジウムが実施されるとともに、生活学プロジェクト成果報告を含む43件の研究発表(口頭発表34件、ポスター発表9件)が行われた。
- (2) 研究者の育成、支援の一環として、第5回の日本生活学会博士論文賞の審査を行い、受賞者1名を決定した。

3. 『生活学論叢』編集委員会

委員長 高田知和

- (1) 『生活学論叢』を年1回発行した。
第35号 2019年9月発行

4. 事業委員会

委員長 土居 浩

- (1) 研究助成事業「生活学プロジェクト」の第5回を実施した。14件（うち新規12件）の応募があり、審査の結果13件を候補とした。うち条件付きとした候補1件が辞退し、計12件（助成金あり10件／なし2件）を採択した。前年度末に過去4回にわたる取り組みの総括をしたこともあり、募集開始から年度末の報告書提出までスケジュールは例年と比較し若干滞ったが、研究発表大会への応募や論叢への投稿予定など成果還元は例年のとおり順調であった。
- (2) 日本民具学会・道具学会とともに隔年開催してきた三学会共催シンポジウムを、2020年3月7日に開催すべく、関係各所と協力し準備を進めていたが、新型コロナウイルス流行に対する会場施設の方針を踏まえ、延期した（なお現在のところ開催未定）。
- (3) 各種事業に対する状況確認・制度支援については、一部につき改善に取り組んだ。

5. 情報委員会

委員長 真鍋陸太郎

- (1) ウェブサイトの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (2) メールニュースの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (3) フェイスブックの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (4) 日本生活学会の100人 今年度は実施することが出来なかった。2020年度に追加で実施することとする。

V. プロジェクト活動

1. 生活学ヘリテージ・プロジェクト

代表者 小林多寿子

- (1) 日本生活学会の歴史を記録し、学術資料として提供し、学会員の円滑な利用を支援する計画のもと、1980年代後半から90年代に生活学会で活躍された方へインタビューを実施し、学会HP生活学ヘリテージ・プロジェクトの新規補充に努めた。

以上